

赤谷の 森だより

Akaya no moridayori



赤谷プロジェクト地域協議会
財団法人自然保護協会
赤谷森林環境保全ふれあいセンター

●赤谷の森写真館 三国山・平標山の花々	2 3
●赤谷の森でわかったこと 「ニホンザルを調べてみたら」.....	4-5
●サポーター活動の紹介 「オオムラサキの幼虫探し」.....	6
●NACS-J 自然観察指導員講習会 in 猿ヶ京...6	
●赤谷プロジェクトの活動.....	7
赤谷プロジェクト活動日誌/イベント情報	
●赤谷プロジェクトに望むこと.....	8
「畏敬の念と感謝」新治小学校六年担任 小林友子さん	
●赤谷プロジェクト、って?.....	8



春を待つフキノトウ

2013年1月24日 群馬県みなかみ町猿ヶ京 撮影：松田大介

赤谷の森 写真館

三国山・平標山の花々

写真提供：林 ふさ子 文：阿部利夫 (平成24年猿ヶ京温泉周辺勉強会第1回講演会より抜粋)



タカネナデシコ

谷川連峰周辺で数が少なくなっている植物であり、平地にあるナデシコより花が大きく、丈が低い。



オノエラン

15センチくらいの黄色または白い花を付ける。この花は「峠と旅歩き」という本に掲載され、それに伴い盗撮が増えた。



タチツボスマレ

日本のスマレの中で全国的にいちばん数の多いスマレ。タチツボというのは壺状と言われているが、本来の意味は明確ではない。特徴は托葉(※2)が長く鋸歯と呼ばれる葉のギザギザが多い。



クルマユリ

名の由来は、茎の途中に葉が輪生状(※1)に生えている様子から。三国山には2種類あり、クルマユリには花びらに黒い点があるが、点のないフナシククルマユリという変種がある。



イワオトギリ

オトギリソウの一種。茎の一部に毛が生え、他のオトギリソウと区別する。このあたりには葉っぱを透かして黒点が出るオトギリソウ、白点が出るサワオトギリソウ、標高の高いところで黒点が出るイワオトギリソウの3種類がある。



チゴユリ

春を代表する植物である。法師温泉に行く途中の杉林などにオオチゴユリという種類もあり、花の形で区分し、途中で枝分かれしているものがオオチゴユリ。三国山にはこの2種類がある。



サンカヨウ

湿り気の多い沢筋に見られ、これも3タイプがある。基本タイプのサンカヨウ、少し葉っぱに切れ目が入る切れ葉サンカヨウ、葉っぱが丸い丸葉サンカヨウが見られる。



イワカガミ

名の由来は、葉が光って鏡のように見える様子から。三国山のもう少し低いところではオオイワカガミがあり、葉がイワカガミの3倍ほどの大きさになる。

※1) 輪生状(りんせいじょう)：茎を中心に円形に葉が3枚以上つくこと ※2) 托葉(たくよう)：葉の付け根に一つつく小さな葉のようなもの



マイズルノウ

名の由来は、鶴が舞っている姿に葉っぱの筋が似ているから。



ハクサンイチゲ

高山植物の代表的な花。三国山から平標にかけての稜線や、平標山から新潟県側の松手山に至る稜線に見られ、松手山には大きな群落がある。花の咲き始めは茎が伸びないが、だんだん茎が伸び花を咲かせる。



チンゲルマ

風が強く、岩が散らばっている乾燥した場所に多く生育。穂が長く特徴的な実を付ける。人気の高い植物。



ミツガシワ

高層湿原(※5)でよく見られ、低地には少ない。大峰沼や入須川の小池沼などでもよく見られる。平標の北面にある池糖(※6)にはこうした北方系の植物がある。



ハクサンフウロ

名前の由来は、加賀の白山で発見されたことから。フウロ草も代表的な高山植物の一つであり、谷川岳にはアカフウロという花卉に筋が出るタイプもある。



ツボスマレ

日本で2番目に数が多いツボスマレ。湿気の多い場所にあり、花に白い斑点が入り、広い範囲に分布している。



ムラサキヤシオツツジ

残雪の頃、ブナ林の下で花を付けるポピュラーな花。ヤシオ(八塩)とは染料に8回染め付けたほどきれいな花という意味。



ヒトリシズカ

1つ花が咲くからヒトリシズカではない。2つも3つも咲くものもある。花の横に花糸(※4)があり、横に線条に伸びるのがヒトリシズカ。フタリシズカより花の時期が早く咲く。



ニッコウキスゲ

ニッコウキスゲは6枚花びらがあるように見えるが、3枚は萼、花びらは3枚。ニホンジカはニッコウキスゲを食べることから、シカの目撃情報が多くあると花が減少している可能性がある。



レンゲツツジ

三国山の中腹に多く見られ、乾燥した草原状の所にある。山ツツジなどでは蜜を吸えるが、このレンゲツツジは有毒。



フタリシズカ

ヒトリシズカの花は線条に付くが、こちらは団子状に付く。フタリシズカはヒトリシズカより半月ほど遅れて花が咲く。このシズカというのは静御前のことで、フタリシズカとは本物の静御前と幽霊の静御前が舞を舞っていた姿といわれ、それを供養したところ幽霊の静御前は消えヒトリシズカになったという伝えがある。



ニリンソウ

山麓から三国山の中腹ぐらまで見ることが出来る。イチリンソウとサンリンソウもあるが、ニリンソウの場合は葉柄(※3)がなく、イチリンソウやサンリンソウには葉柄がある。

※3) 葉柄(ようへい): 葉の一部で、葉身を茎や枝につないでいる細い柄の部分 ※4) 花糸(かし): おしへの柱状の部分

※5) 高層湿原(こうそうしつげん): 苔等が泥炭化して厚く堆積し、周囲よりも高くなったために地下水では涵養されず、雨水のみで維持されている貧栄養な湿原 ※6) 池糖(ちとう): 湿原の泥炭層にできる池沼

赤谷の森でわかったこと

ニホンザルを調べてみたら

赤谷プロジェクト地域協議会

安田剛士



「サルやクマが山を下りて畑の作物を食い荒らすのは、山の餌が少なくなったからだ」とよく言われていますが、これは本当でしょうか。誰か調べた人がいるのでしょうか。サルと折り合いをつけるためには、彼らの暮らしぶりをよく知った上で対策を立てる必要があります。

そこで私は、赤谷プロジェクト地域協議会の皆といっしょに、猿ヶ京から三国峠にかけての「赤谷の森」に暮らす、ナガイ群と呼ばれるニホンザルの群の暮らしを調べてみました。2004年から2007年にかけてのことです。

ナガイ群のサルには発信器がついているサルがいました。その電波を受信しながらナガイ群を追跡します。3年の調査の間に2回だけナガイ群のサルの数を数えることに成功しました。ニホンザルの群は通常30頭前後ですが、ナガイ群は巨大な群（130頭）でした。

実はニホンザルは繁殖力の弱い生きものです。メスは一般に2年に1回1頭の子ザルを生みます。また子供を産むためには、たくさん食べてお腹に一定量以上の脂肪を蓄える必要があります。野生ではせいぜい年に5%程度しか増

えません。ナガイ群がここまで頭数を増やすほど、餌が豊富な状態が数十年続いて来たことは明らかです。

1頭のニホンザルが暮らしていくためには、0.08〜0.24km²の雑木林が必要だといわれています。そこから推定するとナガイ群の頭数は30〜100頭になります。私が調査をしていた3年間に、木の実が大豊作の年と凶作の年がありました。豊作の年は、ナガイ群のサルが畑を荒らす被害は少なく、「赤谷の森」の豊かさを実感した年でした。一方、凶作の年は、被害が深刻でした。

このような山の実りの豊作と凶作

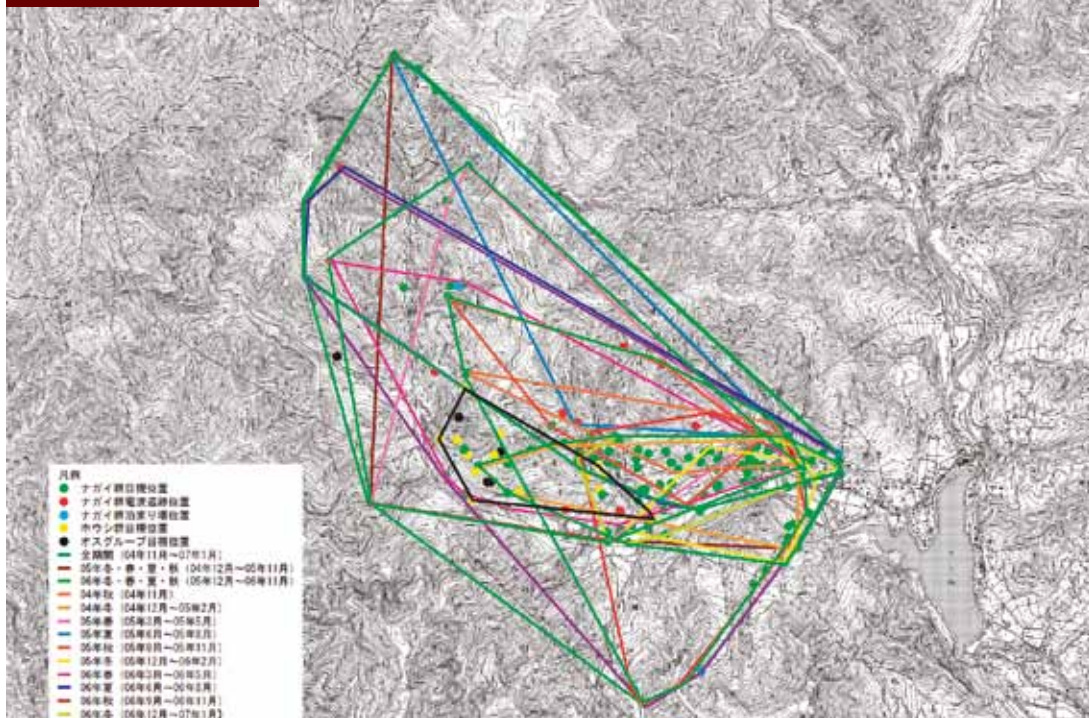


の波は常に繰り返されています。そして本来は、凶作の年を乗り切る事ができる頭数のニホンザルしか、生き残れないはずです。ナガイ群を養い続けてきたのは畑であることは、明らかです。

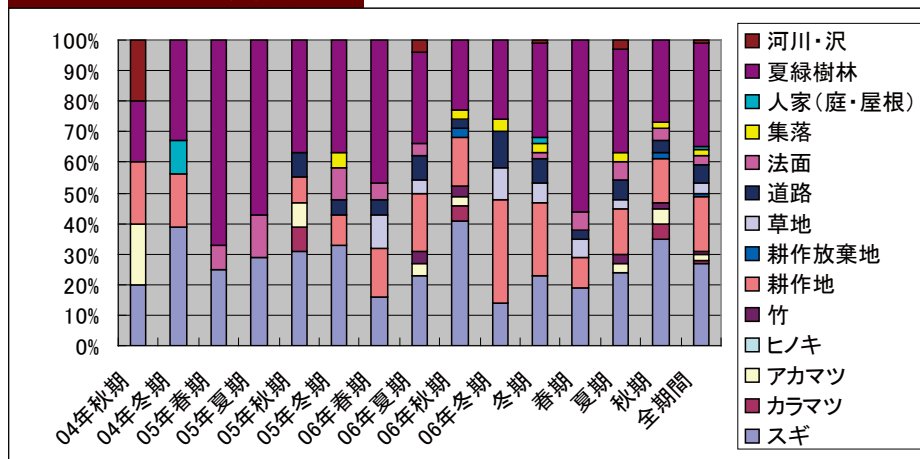
ナガイ群は春から秋にかけて広く山々を巡り様々なものを食べ、冬は西川沿いの集落近くで過ごしていました。そして冬にもっとも畑に出没していました。また山から畑に出没する時には、決まった場所まで道路や川を渡っていることも判りました。作物を作っていない冬場の畑でも雪深い山に比べればそこは、ニホンザルにとって餌が豊富な天国です。

人間に追われることなく畑で餌を食べ冬を乗り切れる状態を許してきたことが、猿害を増悪させ同時にサルを増やしてしまったのです。冬こそサル対策が必要です。

ナガイ群の行動範囲



ナガイ群の植生環境利用比率



サポーター活動の紹介

オオムラサキの幼虫探し

オオムラサキの幼虫を見たことがありますか。バルタン星人？ なんか可愛いでしょ。オオムラサキは国蝶で、翅をひろげると15cmほどあり、アゲハチョウよりひとまわり大きいチョウです。オオの翅の表は美しい青紫色の金属光沢がありますが、メスはひとまわり大きく全体が茶色で渋いです。

全国的には開発などで雑木林が消滅して見られなくなった地域もありますが、赤谷の森では7月の下旬にクヌギやヤナギの樹液に集まり、カブトムシやスズメバチと蜜場の専有争いをしてる姿が見られます。けっこう強いですよ。

赤谷の森のメスは食樹のエゾエノキの細い枝や葉に多数産卵し、幼虫はそれらの葉を食べて成長します。11月下旬になり、3cmほどに成長した幼虫は、樹の幹を下り、株の周囲の落ち葉の裏で越冬します。



オオムラサキの幼虫。バルタン星人？



成虫(オス)。キレイでしょう？



オス(右)が求愛しているが、なかなか受け入れないメス(左)



葉の色に擬態している幼虫。わかりますか？

撮影：小林茂男

12月の初雪頃に足裏や膝にしみ入る寒さに耐えて、株の周りで落ち葉をていねいに一枚一枚裏返していくと、葉の主脈あたりにじっとしているバルタン星人のような、または能面のキツネの耳のような角を持った薄茶色の幼虫を見つけることができます。もし幼虫を見つけたら、幼虫は乾燥に弱いので、春までに落ち葉が乾燥しないよう、きっちりと元の場所に戻して下さい。

幼虫は、春になるとまた樹に登り、芽吹いた葉を食べて、チョウへの変身の準備のために葉の裏などでサナギとなります。離れて見ると、葉っぱそっくりなんですよ！

赤谷プロジェクトでは、オオムラサキの生息確認のため、エゾエノキがある場所の確認作業も行っています。

(前田修、小林茂男、小耐守)

NACSS-J 自然観察指導員講習会

in 猿ヶ京

日本自然保護協会では1978年から自然観察会のリーダー養成を行っています。その養成講座、「自然観察指導員講習会」を昨年の12月1〜2日の2日間、赤谷の森の麓、みなかみ町猿ヶ京温泉で開催しました。関東圏を中心に地元みなかみ町や、北は岩手県、南は鹿児島から、40名の方が受講されました。初日は吹雪で始まりましたが、無事に2日間のプログラムを終えることができました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

2日目の「自然観察会のテーマ探し」では、「猿ヶ京お願しょめぐり」を題材に、持谷明宏さん(猿ヶ京ホテル)に講師役をお願いして、地域の歴史と文化をいかした自然観察会の実習を行いました。地形図で昔からの道である旧三国街道と国道17号線の比較をしたり、屋敷林、家の造りなどもおもしろい観察の素材です。地域で育まれた歴史や文化、暮らしの中に、人と自然の関わりを知るヒントがあり、自然観察会の題材は必ずしも自然だけでなく、自然だけではないことを受講者の方が学ぶ機会となりました。



地域の歴史と文化をいかした自然観察会の実習の様子

(財)日本自然保護協会 教育普及部 大野正人



赤谷プロジェクトの活動

10月～1月 赤谷プロジェクト活動日誌

活動日	活動内容	活動場所
平成24年10月1日	AKAYAプロジェクト現地説明会	小出俣試験地、川古温泉
10月2～3日	NPO法人森づくりフォーラム視察	茂倉沢2号ダム、小出俣再生試験地、旧三国街道
10月4日	沼田北小学校「森の探検ウォークラリー」	高原千葉村
10月9日	韓国山林技術士協会視察	いきもの村、小出俣林道ほか
10月15～19日	生物多様性研修（中央研修）	小出俣再生試験地、茂倉沢林道ほか
10月20日	(株)ニコン社員ツアー	旧三国街道
10月23日	旧三国街道モニターツアー	旧三国街道
10月28日	赤谷の森自然散策	小出俣林道
11月3日	赤谷プロジェクトのブースオープン	たくみの里
11月10日	第36回全国植樹祭赤谷プロジェクトPR	静岡県伊豆市天城ドーム
11月14～16日	センサーカメラ斉調査	赤谷プロジェクトエリア内
11月15日	千葉市立大椎中学校体験学習	高原千葉村
11月17～18日	資生堂CSR活動「赤谷の日」体験	いきもの村、小出俣林道ほか
11月26日	AKAYAプロジェクト現地説明会	川古温泉浜屋、茂倉沢2号ダムほか
11月27日	(JICA)ブラジル生物多様性保全研修	いきもの村、南ヶ谷林道ほか
11月30日	21世紀・アイヌ文化伝承の森プロジェクト推進会議作業部会視察	いきもの村、茂倉沢2号ダム、小出俣再生試験地ほか
12月1～2日	自然観察指導員講習会	みなかみ町猿ヶ京温泉
12月4日	新治小学校旧三国街道遠足事後学習	新治小学校
12月19～20日	綾プロジェクトの取組勉強会	宮崎県綾町綾照葉樹林、試験地ほか
平成25年1月27日	赤谷プロジェクト活動報告会	みなかみ町新治支所

○各ワーキンググループ会議

企画運営会議（第1回）10月24日、ほ乳類（第1回）10月28日、猛禽類（第2回）11月10～11日、調整会議（第2回）12月14日、溪流環境復元（第2回）12月25日、植生管理（第3回）1月11日、獣害に強い支援づくり事業モデル地区現地検討会・ほ乳類（第2回）1月14日、地域づくり（第1回）1月15日、ホンドテン調査活動会議1月19日、猛禽類（第3回）1月21日、自然環境（第2回）1月26～27日

○赤谷プロジェクト地域協議会会合

10月7日、11月4日、12月10日

○赤谷の日（いきもの村ほか）

10月6～7日、11月17～18日、12月1～2日、1月12～14日

○猛禽類調査（赤谷の森全域）

10月11日、11月13・21・29日、12月6・13・18・27日、1月2・3・10・17日

○ホンドテンモニタリング調査（赤谷の森全域）

10月8・13・14日、11月10・17・24日、12月8・9・16・20日、1月2・3日、2月9・10日（予定）

○溪流環境調査（赤谷の森全域）

10月5日、10月22日、11月2日、11月16日、

○関東森林管理局メールマガジン

12月12日（37号）、1月10日（38号）

赤谷プロジェクトに望むこと

「畏敬の念と感謝」

新治小学校六年担任

小林 友子

新治小学校では「総合的な学習の時間」に、赤谷プロジェクトの皆様に関わっていただいています。

五年生では、千葉村の中で自然観察の学習をします。六年生では、その学習を踏まえ三国街道の自然や歴史についての学習を行います。三国遠足に同行していただき、三国街道の自然や歴史についての話を聞かせていただきながら登山します。

実物を見たり触れたりしながら、分かりやすく説明してくださるので、子どもたちは足取りも軽く、感嘆の声をあげ、目をキラキラさせていました。「わー」「へー」「あつた」「見つけた」など、子どもたちは心からの驚きの声をあげていました。



超える長大な時間の流れの中に立ち、地元の自然の偉大さや大切さを実感した子どもたちでした。

豊かな自然に囲まれている地域にありながら、その豊かさを身近に感じていない現状があると思います。折に触れ

学習をしていくことで、自然の仕組みを理解し、共生していける子どもたちであってほしいと思います。その学びの場を提供していただけることに感謝申し上げます。今後もご協力をお願いいたします。

赤谷プロジェクト、って？

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域づくりをめざして活動しています。地域、自然保護団体、国有林管理者という立場の異なる三者がともに活動するという、全国的にもめずらしい取り組みです。

活動地域は、旧新治村三国山脈に広がる、約1万ha(10km四方)の国有林。ほぼ中央に赤谷川が流れることから、「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生きものの調査・研究、環境教育、研修の受け入れなど、活動はさまざま。毎月第一土・日曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。また地域協議会では、子ども向けの「ムタコの日」なども開催しています。どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせ下さい。



本誌や赤谷プロジェクトに関してのお問い合わせは、こちらへどうぞ！

赤谷プロジェクト地域協議会

代表幹事 林 泉

TEL.0278-66-0888

メールアドレス kawafuru0888@gmail.com

(財)日本自然保護協会

プロジェクト担当 出島 誠一

TEL.03-3553-4107

http://www.nacsj.or.jp/akaya/index.html

メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局 赤谷森林環境保全ふれあいセンター

所長 廣橋 潤

TEL.0278-60-1272

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html

メールアドレス akaya_postmaster@rinya.maff.go.jp